

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29年 3月20日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690800083
法人名	株式会社 みさき
事業所名	グループホームあゆみ
所在地	鹿児島県出水市荘973-1 (電話) 0996-82-5511
自己評価作成日	平成29年1月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成29年2月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

国道から少し入った静かな環境と広い敷地に立地し、館内は、明るく開放的な居住空間がある。玄関を入るとホールの両側に各ユニットがあり、明るくて広いロビーを挟んで両側に居室が設けられ、いつでも自由に居室とロビーが行き来できて安心感があり使い勝手が良い。居室はクローゼットやトイレも完備されプライバシーも守られている。窓から見える庭も広く見晴らしも良い。畑や花壇もありベンチで休んでも、散歩しても気持ち良く過ごせる。食事も健康的なメニューを専門の調理人が手作りし家庭的な雰囲気の中、職員も含め全員で昼食を頂く。地域の行事へ参加したり季節ごとの行事もユニット合同で行い、家族の方を含め交流する機会も持つ。何より職員一同、入居者様が安心して生活が過ごせる様に精一杯努力し一人ひとりに寄り添い毎日を大切に過ごして頂けるよう支援していきたいと思っています。

○ホームは、国道から数百メートル入った静かな住宅地の広い敷地に、6年前に開設され、園庭には菜園や花壇、ベンチ等があり、ホーム内は明るく衛生的で空調等の配慮も十分で過ごしやすい環境になっており、利用者は四季を感じながら穏やかな日々を過ごしている。開設以来、地域や利用者に係る馴染みの人との交流を大切にしたい支援に努めており、日常的な散歩や外出、買い物時の挨拶や、農産物を頂くなどの関係が構築されている。昨年は防災無線もホームに取り付けられ、災害に関する情報の他、地域の行事等の情報も日々得られるようになり、地域の行事等への参加や住民との信頼関係に基ずく円滑な交流が深まっている。

○管理者及び職員は、ホームの理念や年度目標に添って、利用者の尊厳や誇りを大切にしながら想いの把握に努め、その人らしい平穏な生活が過ごせるよう日々取り組んでいる。利用者及び家族の想いや身体状況、生活習慣等を詳細に把握し、介護計画に反映させてサービスの向上に務めている。

○代表者及び管理者は、職員との個人面談の実施や日常的に要望や意見等の把握に努め、課題に対しては職員全体で話し合っ改善を図っており、職員は意見や要望等を気軽に述べたり協議できる体制が築かれている。また、職員のスキルアップにも熱心に取り組んでおり、計画的な研修の実施や、外部主催の研修への積極的な参加、資格取得へのバックアップなど細かに配慮し、信頼と協力体制を構築した働きやすい職場づくりに努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	職員会議の時には、必ず理念を復唱し常に念頭に置きケアに活かされるようにしている。	法人及びホームの理念はリビングなど目に付きやすい場所に掲示して、利用者が地域や家族と関わりながら平穩に過ごせるように思いやりを持った支援に努めている。理念や職員一人ひとりが設定している年間目標について、スタッフ会議や毎日の申し送り時に研修やケアの振り返りを行って、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の情報誌を届けて頂いたり、有線放送にて行事などの情報を得、参加できるように努めている。火災通報装置には地域の方にも連絡がいくようにし協力を得られるようにしている。	自治会に加入しており、クリーン作戦や総会、行事等へ積極的に参加し、また防災無線の設置により地域の情報が日常的に得られている。ホーム主催の敬老会後の家族会の懇親会には地域の方々の参加もあり、また市の文化祭には利用者の作品を出展し、展示会場では他の作品も見学しながら対話するなど地域との交流に努めている。舞踊などのボランティアも積極的に受け入れ、散歩時の挨拶や野菜等の差し入れも頂くなど日常的に触れ合いの機会は多く、利用者はこれらの人々との交流を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	認知症の人の理解を深め正しく理解していただくために訪問者の施設見学等受け入れている。救急法等の研修の際、地域の方にも参加して頂き、遭遇した時に役立てられるよう共に学ぶ機会を設けたりしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には自治会長、民生委員、家族、介護保健課や地域包括支援センターの方の参加を得て施設の様態報告を行い、意見交換や助言等頂きサービスの向上に活かしている。	会議は家族、自治会長、民生委員、行政職員等の参加を得て定期的に開催し、利用者の現況や行事・問題点への取り組み状況、外部評価の結果、ヒヤリハットの事例の報告がなされると共に、行政職員による高齢者福祉に関する制度の説明や委員からケアや災害時の対応に関する意見や地域の情報等が活発に出されている。委員から出された意見はスタッフ会議等で協議して、日々のサービス向上に活かされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	利用者に関することや業務に関する事等を相談行い指導や助言、情報等を頂きサービスの向上に努めている。	市担当職員には運営推進会議に出席して貰おうと共に、介護保険の更新や諸手続き及び各種の報告等の際に運営やケアに関する相談や協議を行って、助言・指導を頂くなど密に連携を図って利用者のサービス向上に取り組んでいる。また市が主催する会議やグループホーム協議会の研修会にも積極的に参加して、情報や意見の交換を行うなど協力関係を築いている	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	講習の場を持ち、すべての職員が正しい知識を身に付け理解し身体拘束をしないケアに取り組むことが出来ている。	身体拘束の排除については、マニュアル「身体拘束廃止に関する指針」を整備し、虐待防止や権利擁護等に関する研修を市担当者を講師に計画的に実施して理解を深めている。また、言葉による拘束も含めて日常的にケアの振り返りや話し合いを行って、安全の確保と自由な暮らしの支援に努めている。居室や玄関の施錠は行わず、職員は常に利用者の行動や思いに寄り添うケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市の職員を招き虐待について学び、全職員で共通認識することがないように注意し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	市の職員を招き権利擁護について学び制度の理解に努めている現在、地域福祉権利擁護支援を受け金銭管理面での支援を活用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所の際は契約書、重要事項に基づいて説明し、施設で起こりうるリスクについても理解得られるようにしている。改定がある場合はその都度、説明行い了承得た上で行うようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会を開催し意見や要望を聴いたり、面会に来られた際に尋ねたり、玄関先に意見箱を設置したりして家族の意見や要望に添えるよう日々努めている。	利用者の意見や思いを日常のケアの中での会話や表情、所作等から常に把握することに努め、家族とは来訪時の対話や電話、家族会、運営推進会議等で意向の把握に努めている。内容は「申し送り帳」や「介護記録」等で共有を図り、職員全員で対応を話し合っサービス向上に反映させている。改善の経過や結果については本人や家族にも報告して理解を得ている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ会議で意見を話し合い全員が納得した上で業務ができるようにしている。必要に応じて個人面談も行い意見や要望等聴くようにしている。	職員の意見や要望等は、申し送りや日々のケアの中、毎月の「スタッフ会議」等で、また内容によっては職員各人に声かけや面接も行って把握に努め、申し送りやスタッフ会議等で協議して業務改善や利用者へのサービス向上に反映させるなど働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。資格取得や外部研修への参加についても、積極的にバックアップして職員のスキルアップに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	一人ひとりが役割を持ち、得意とする事が業務内で活かされるよう努めている。また、個々に目標を立ててもらい有言実行にむけて支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人外の研修に参加してもらい、そこで得た知識を他の職員にも共有してもらえよう発表の場を設けたり、内部研修も計画的に行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他の施設を見学させて頂いたり、業務内容について参考にさせて頂いたりしながらサービスの向上に役立てられるように努めている。又、研修に参加することで交流を持てるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に事前情報として心身の状態や本人の思い等を全職員で共有し、入所した時に不安や要望等傾聴しながら丁寧に説明し安心感と信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前の面談で家族の要望や不安を伺い施設としてどのようなことができるのか話し合い家族の良き理解者として安心して相談ができるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に家族や利用されていたサービス機関等に情報を得、今何が必要かを見極めサービス内容を検討したり、支援を受けるためのアドバイスをしたりしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活習慣での得意分野を活かし、出来ることはしてもらい暮らしを共にする者同士としての関係づくりをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方とどのように支援していくか話し合い、家族が出来る事は協力して頂きながら、共に支援出来るよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室へ行ったり、友人、知人の来訪など来やすい雰囲気作りに努めている。	本人や家族、関係者から、生活歴、病歴、家庭環境、地域との交流状況、趣味、嗜好等を聞き取り、アセスメントシートに整理して情報を共有している。家族や友人の来訪時にはゆっくり話せる場やお茶を配慮し、本人の希望に沿って一時帰宅や地域の行事への参加、墓参り、外食等、馴染みの人や場との関係が途切れないように家族と連携して支援している。機関誌「あゆみたより」にコメントを添えて利用者の状況を家族に伝え、電話、手紙の取り次ぎの支援も行って、関係性の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性で孤立しないように全体で行う作業、レクリエーション、散歩等で全員が触れ合える様なきっかけ作りと雰囲気作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後でも面会に行ったり、外で家族の方に会った時には会話したりして関係性が途切れないようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で思いや要望、意向を把握し利用者主体の支援ができる様に努めている。	日々のケアの中で、利用者の思いや希望の把握に努め、尊厳やプライバシーに配慮しながら本人主体のより良い暮らしが営めるように家族とも連携して取り組んでいる。趣味（書道や読書、折り紙、ぬり絵等）の取り組みや余暇の過ごし方についても、家族と協議しながら可能な限り本人の希望を尊重した個別の支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人、入所前のケアマネから情報を得たりしてこれまでの暮らしの把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活や会話の中で本人の訴えに耳を傾けながら心身の状態や出来る事、やりたい事など把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活を過ごす上で必要とされる支援や本人の意向などを踏まえ、スタッフ、計画担当者、看護師、家族等で話し合い介護計画を作成している。又、定期的にモニタリング行い方針等を検討している。	本人及び家族の意向や主治医の指示等を基に、3カ月毎にモニタリングやカンファレンスを行い、きめ細かな介護計画を作成している。計画の内容は利用者や家族に十分説明して理解を得ており、ケアの実施状況は「介護記録」や「送り帳」「体調管理表」等で共有している。利用者の状況の変動に対しても、随時計画を見直して実情に即した計画を作成して支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録により状況の把握に努め、スタッフ全員で情報を共有し職員会議で意見を出し合い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況の変化により、その時に必要な支援を事業所が代理で行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域敬老会や地域で開催される催し事に参加したり地域観光の鶴見学や神社参拝等に出かけ楽しめるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人、家族の希望を大切に、継続して診療が受けられる様に受診時には状況提供しかかりつけ医との連携が取れるようにしている。	入居時に病歴やかかりつけ医を把握し、継続して入居前の医療機関で治療している。通院は原則家族が付き添っているが、緊急な場合や家族の不都合な時は職員が同行している。また、利用者の状況により訪問診療も実施されている。受診に際しては「診察記録」で利用者の病状を伝え、主治医からも指導助言を記載してもらう等、医療連携の体制が構築されている。受診の結果は、家族と密に連絡を取り合って共通の認識と対応を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>毎日のバイタルチェックから皮膚の異常、心身の変化等看護師に報告し必要に応じて指示を貰い対応できるように協働し支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>ある一定期間ののち、医師や医療関係者とカンファレンスを行っている。又、面会等行い、状態把握に努めている。退院される際は医療機関より指導を受け入院前の生活に戻れるよう支援している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に重度化した場合における対応の指針として説明は行っており、本人や家族と十分に話し合いを行い、必要があれば病院や他の施設との連携を取り利用者の状態に合ったケアができるよう事業所で出来る事は支援行っている。</p>	<p>重度化や終末期の対応については、利用開始時に「重度化した場合における対応に係る指針」でホームの対応を丁寧に説明して同意書を得ている。重度化した時点で主治医から病状の説明と再度家族の意向を確認しており、状況によっては医療機関への入院や特別養護老人ホームへの入所等の選択肢も示しながら、ホームで可能な限りの支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>消防署の協力を得て救急法の講習で心肺蘇生法、心マッサージAED使用法、応急手当法等学び実践に役立てるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回避難訓練を行い地元の消防団や自治会長、民生委員の協力がえられるような体制作りを行っている。又、防災無線を設置し、避難情報が確認できるようにしている。</p>	<p>年2回、夜間を含む火災を想定した避難・消火・通報訓練を消防署の協力を得て実施している。併せて消防署職員による防災に関する講話や消火器の取扱い等の研修も実施されている。また、近隣の地域住民との協力体制も築かれおり、自動通報装置の連絡先に自治会長宅も組み込まれている。スプリンクラーや消火器の設置、災害発生に備えた食料や飲料水等の備蓄もなされている。県外の災害の事例を参考に、また原発事故発生も想定したマニュアルの整備を作業中である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりに対して常に意思を尊重した対応を行いさりげない排泄の声掛けなどプライバシーに配慮したケアを心がけている。	利用者の人格や誇りを損ねるような言葉かけや対応を行わないために計画的に接遇や権利擁護等の研修を実施し、日常的に職員間でも注意し合う等、常に意識して支援に取り組んでいる。特に言葉づかいや排泄、入浴、衣服の着脱時の支援等が適切な対応になるように努めている。利用者に係る台帳類の管理にも十分配慮して取り扱い、居室や浴室、トイレ等はプライバシーが確保された構造となっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの気持ちに耳を傾け分かりやすい言葉掛けや選択肢のある声掛けなどで自己決定しやすい環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れの中で一人ひとりの体調、気分などに配慮しながら利用者の気持ちに沿って穏やかに過ごせる世に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	朝や外出時の更衣の際、本人と相談しながら服を選んで頂いている。又、定期的に訪問理容を受けたり、馴染みの美容室を利用したりしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの身体状況を配慮して食事の準備を行っている。一緒に野菜の下ごしらえをすることで食事の話題にもなり楽しく食事が出来ている。お盆拭きテーブル拭き等も積極的にして頂いている。	身体状況に伴う食事形態や栄養バランスに配慮した1週間ごとの基本メニューを管理栄養士が作成し、専任の調理師が旬の食材や盛り付け等に気を配り、調理している。おせちや節句、誕生会、クリスマス会等の行事食や手作りのおやつ、弁当持参の花見、レストランでの外食、園庭での食事など家族と協力して食事がより楽しみなものとなるよう様々な工夫をしている。利用者も下ごしらえや下膳、野菜の収穫等、関心を持って楽しみながら行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	栄養バランスを考慮しその人にあ った量や食べやすい形態で提 供している。食事の接種量や水 分量は毎食チェックし記録に残 している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の 力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後個々の能力に合 わせて声かけ、見守り、介助に よる口腔ケアを行っている。義 歯は毎日、洗浄液にて消毒を 行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣 を活かして、トイレでの排泄や排泄の自 立に向けた支援を行っている	定期的、又、状況に応じて個人 のパターンを把握しながら声掛 け、誘導、見守り介助を行い、 自立に向けた支援に努めてい る。	利用者の見守りや体調管理表で、排泄パ ターンの把握に努め、昼間は可能な限りト イレでの排泄を支援している。水洗トイレ が各居室に設置されており、利用者の状態 に沿った介護用品やケアの方法を介護計画 に反映させて改善に努めている。トイレ誘 導や汚した衣服の交換に際しては、利用者 の気持ちやプライバシーに十分配慮したケ アを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、個々 に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便状況のチェックを行い 水分補給や散歩、体操等の運動 による自然排便を促している。 困難な場合には主治医の指示を 受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴拒否がある場合、時間を置きタイミングをみて声掛けたり、本人の気持ちが向いた時に対応したりしている。又、個々の好みの湯加減になるよう配慮している。	入浴は週3回が基本であるが、排泄の失敗等には随時、清拭や入浴で清潔の保持に努めている。利用者の好みの温度や時間に配慮し、石鹸など消耗品への拘りにも可能な限り対応するなど、ゆっくりした気分で入浴を楽しんでもらっている。保湿クリームや塗布や皮膚疾患の手当も行ないながら親密な会話を交わすコミュニケーションの場にもなっている。入浴を拒む場合は無理強いしないで、スタッフや時間の変更など工夫して、入浴への意向を待つようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後など日中も適度な休息がとれる様配慮している。夜間は室温や照明にも配慮し快適に休めるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	緊急時対応のファイルに一人ひとりの薬の説明書を入れ、いつでも見る事が出来るようにしている。薬の副作用にも気をつけ異常時は看護師へ報告するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	集団でレクリエーションを楽しんだり、個別に趣味のぬり絵や書き物をされたり歌が好きな方には一緒に歌ったりして楽しみを支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	家族と定期的に外出して頂いたり、施設外への行事を年間通じて予定し、普段行かない様な場所へ行ったりして出来るだけ地域に触れる事が出来るようにしている。	外出については、利用者の健康状態や天候に配慮しながら、本人の希望に沿って散歩や週1回の買い物・ドライブ、墓参り、外食、美容室での整髪、一時帰宅等を、家族と協力して支援している。季節毎の花見やツル見物、レストランでの外食などホーム全体での外出も計画しており、また日常的に利用者仲間で園庭の散歩や草花を愛でたり、菜園の野菜の収穫したりと外出を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い銭として持ってもらい週1回買い物支援を行っている。必要なものを購入し自らレジで精算しノートに記帳していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族との話し合いの元、電話の要望があれば通話支援を行っている。手紙の通信支援も行っている。その場で電話出来ない方には職員から家族に伝達し来訪して頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはトイレを設置し他人を気にすることなく排泄が出来る、ゆったりとした共用空間は、室温、湿度、音、光、臭い等にも配慮している。又、皆で作成した工作物や個人の作品なども展示して見て楽しめる空間作りを心がけている。	広い庭の菜園には多種の野菜が植えられ、散歩や日光浴・お茶会などを楽しめるようにベンチも数か所設置されている。ホームは木造の平屋造りで、リビングや廊下は余裕ある広さで、天窓が設置してあるため明るく、清掃や空調・防臭等にも十分配慮されている。対面式のキッチンからは調理の音や匂いが伝わってくるなど家庭的な雰囲気になっており、リビングにはテーブルや椅子・ソファ・テレビなどが設置され、随所に利用者の作品や花写真等が飾られて、和やかで居心地の良い空間となっている。利用者は好きな場所で気持ちよく過ごしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りで過ごしたい時には、居室で過ごして貰ったり、テーブル席やソファなどで寛いだりとその時の思いで過ごして頂けるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や今まで使用していた布団や馴染の品、家具等を置き居心地良く過ごせる様な空間づくりに努めている。	各居室は明るく、広さも十分にあり、ベッド、エアコン、クローゼット、水洗トイレが設置されている。利用者の使い慣れた家具や身の回りの物を自由に持ち込んで頂き、身体状況に応じて安全な動線を確認しながらそれらを配置して、家庭同様に落ち着いて居心地良く過ごせる居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の入口に名前を貼り部屋が分かるようにしたり、食事の椅子に名前を付けて自分の場所が分かるようにしたり、私物に名前を記入し他者と自分の物が区別できるようにしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない